
ナイトフライト 2 . 5

アオイミウ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ナイトフライト2・5

【Nコード】

N1375D

【作者名】

アオイミウ

【あらすじ】

バンドを愛し追いかける、新人漫画家、優羽^{ゆう}。DMをきっかけに観に行ったバンドNight Flight^{ナイトフライト}に、思わず魅了される。仕事に友達に家族の事・・・色んな思いのある中、優羽の取った行動は・・・。漫画家デビュー経験のある、作者の経験を元にしたフィクション。

- s t a g e 1 - N i g h t F l i g h t (前書き)

初めまして。

「小説」という物に憧れがあり、子供時代の夢が淡く叶った気分です

このお話はライブ好きな私、漫画描きの自分の一部分ではありますが、バンド名、個人名などは、一切実在しません、フィクションです。

携帯小説は、初の試みですが、楽しんでいただければ・・・と思っています。では・・・

- s t a g e 1 - N i g h t F l i g h t

伝えたい想いがある。

きつと、伝えてはいけない想いもある。

あの時のあたしの答えは、間違ってたのかな？

今でも分からないよ……。

何から書いたらいいでしょう。

これは、優羽^{ゆう}という、私の日々を綴ったものです。

子供の頃から、漫画家に憧れて、そしてミュージシャンに憧れる、あたしの物語。と言っても、音楽は聴くだけです！ 演奏も出来ないし、歌もカラオケぐらい？（笑）

普通です（笑）

プロフィールを言いますと、普通に地方に生まれ育って、短大に入学して。

でも、短大在学中に漫画家のアシスタントをやっていました。

結構ハードでしたよ！ 泊まり込みで、ずっと机に向かった！

そうそう。

趣味の音楽です。結構ビジュアル系からポップなところから、色々聴きます

そして、たまにライブに行きます！

そんなあたしが、あのバンドと出会ったのは、あたしが21歳の時。

ふとウチの郵便受けを見ると何通かのダイレクトメール。

知らないバンドのライブ情報???

『ああ、どこかのライブに行った時、チケットの半券に住所を書いてたから・・・』

それで、来たんだと解った。

あたしはその時、アシスタントをしながら、新人漫画家としてデビューしたばかり。

『ネタになるかもね』

DMを見てみれば、インディーズバンドらしい。

『ライブの写真撮影できるかもね』

そんな、軽い気持ちだった。

『どうしよう、行ってみようか・・・』

DMを見てみる。

3人の、男性メンバーの顔写真。

『真ん中の、ボーカル？ カッコいいけど、なんか性格キツそう？』

そして、あたしの中に、ある思いが・・・。

左側のメンバー。

ロングヘアの黒髪。

あたしの胸に、ズキンとした胸の痛み・・・。

『ちよつとだけ、似てるかもね・・・』

あたしには、少し前に亡くなった兄がいた。
兄は半年前、25歳の若さで急死していた。死因は癌で、発見から2週間で逝ってしまった。今でも、立ち直ってないよ。家族も、あたしも。

時々、急に思い出して、涙が出る。

今では、実家にいる家族とは電話でたまに話すぐらいだけど・・・でも、まだ母親が心配です。
心が、不安定です。

そんな兄は、学生時代にバンドをやっていて、髪を伸ばしていた。

ちよつとだけ、そのバンドマンに、似てる気がした。

でもそのDMの人は、サングラスをしていて・・・

『きつとお兄ちゃんの方が、いい男に決まってる』

サングラスしてる人って、だいたい顔に自信が無い人じゃない？
??・・・なんて思った。

『まあ、行ってみてもいいかな』

彼らとの出会いは、そんなもの。

彼ら、というより。あたしにとって「彼」かな。

バンド名は「Night Flight」ーナイトフライー

後に、こんな事になるなんて。

その時のあたしには、想像もできなかった・・・

出会いは4月。

渋谷のスペイン坂のほど近く。

『こんな所にライブハウスがあつたんだ・・・』
見ると、会場前には、ファンらしき人達・・・女の子が多い。

こういう数百人キャパのライブハウスは、初めてで、新鮮な感じ。
今までは、どちらかというと、メジャーなミュージシャンのライブ、武道館とか、ホールがメインだったから、この規模に、ドキドキする。

あたしはここぞとばかりに写真を撮る。
オープンすると、皆が会場の中へと消えて行く。あたしは招待客だし、のんびりしたもので・・・地下へと続く階段にも、シャッターを切る。

最後に、招待客のあたしが会場へと進む。

受付のスタッフの女の子が、あたしの招待ハガキを見て、怪訝そうな顔をする。奥にいた男性スタッフに声をかける

「ああ、それナイトが無料招待してるらしいから・・・」
言つて、また奥へと戻る。

「あの・・・会場内、写真撮影、いいですか？」

そう確認を取るとまた男性スタッフに確認を取る女性スタッフ。

「ナイトつて大丈夫ですか？」

「ああ、大丈夫だよ・・・」

『「ナイト」つていうんだ・・・』

そんな風に、有名バンドみたいに略されてるんだ・・・なんて、そんな興味が湧いた。

会場内は、まだ人もまばらで、ホールに比べてステージと客席が

近い、密な感じ。最前列は十数人で埋まってしまいそうだ。
あたしは、再びシャッターを切る。

1バンド目の演奏が始まったも、満員とは言えない入客数。
あたしは、最前列とは行かずも、ほどほどに近い2〜3列目で聴いてみた。

演奏は、盛り上がり欠ける。どこか似たような、個性のない詞とメロディー。

2バンド目も、まあ、私的には違いが判らなくて、正直退屈だった。

ステージを、とりあえず色々なアングルで撮ってみた。

そして、写真も撮ったし、いつそ帰ろうかな・・・なんて迷い始めたその時、会場内に、序々に人が集まり始める。

『・・・!?!』

しばらくして、すぐに解った。次は「Night Flight」の出番だ。

最後の出番の彼等のために、人が続々と詰めかける。

会場内の、エネルギーが変わっていく。

2バンド目が終わる頃には、会場がほぼ満員状態になる。

あたしはその勢いで、前の方、2列目くらいまで押されてしまっていた。

何が起こるんだろう・・・と、ちょっとした期待感。

スタッフのセッティングも終わり、サポートのドラマーらしき人が登場。

SEが流れ始める。今まで聴いたことのない、幻想的な音楽。オリジナルのSEのようだ。会場の期待が高まる。

ファンの、メンバーを呼ぶ声。

「アゲハ〜〜!!」

「アキ〜〜!!」「シュン〜〜!!」

思い思いにコールする女の子達。

そして、SEもクライマックスになり、メンバーの登場。

「アゲハ〜〜〜〜!!」

赤い髪に、青い目の男。中央のマイクの前に立つと、軽く手を振る。

黒地に、シルバーの花柄のシャツ。

目つきが鋭く、クールな振る舞い。

「アキ〜〜〜〜!!」

黒髪の、長い髪の男。サングラスを外した目は、意外にはっきりした顔立ちで、印象深い。

柄のシャツに、尖った黒いブーツ。

向かって右側の、ギターだ。

「シュン〜〜〜〜!!」

金髪の、ひときわ背の高い男の子。

カジュアルなTシャツにジーンズ。今風の男の子といった印象。

大きな目に、自信あふれる笑み。

左のベースの位置に立つ。

ギターの1音が鳴り響くと、会場が静まる。

その音色に、胸が高鳴る。

赤い髪のボーカルの声。少し割れたような、艶っぽい声。ギターと歌声が、静かに語るように絡み合う。

そして、サビには、ボーカルの声も激しく響き、割れんばかりの爆音。

殴り弾くギターに、リズミカルなベース、勢いを増すドラム。歌いながら激しくギターを鳴らすボーカル、睨み付けるような、鋭い視線。青いコンタクトと相まって印象的。

音と声が、激しく重なり重なり合い、暴力的なまでの爆音が、会場を陶醉させる。

激しく頭を振る、前列の子達。

あたしは、ただただ圧倒されて見つめる。

今までのバンドとは比べるまでもない。

完成度の高い演奏と歌と、ルックスとセンス。

こんなバンドが、まだ隠れてたなんて！！

そして、ふと思い出す。最初の目的！

カメラを持ってシャッターを押す。被写体として、今度は申し分無い！

そして、あたしは無自覚なまでに、その音に引き込まれて行った。

- stage 1 - Night Flight (後書き)

- stage 1 - いかがでしたか？

まだまだ導入部分ではありますが・・これから不定期ですが更新して行きます

よろしければ、作者紹介ページ、またはこちらよりコメントお願いします

<http://syosetu.com/g.php?c=w9238b&m2=3&t=w9238b>

- s t a g e 2 - 二次元（前書き）

久々の更新になってしまいました・・・。

これからはもつとマメに更新しようと思います!!

では。 s t a g e 2、行きます

- stage 2 - 二次元

ライブが終わった後も、あたしはしばらく余韻に浸っていた。
強烈な爆音。耳がおかしくなりそうだったが不思議と不快では無かった。

物販コーナーを覗いてみると、Night FlightのCDは、ミニアルバムのみが販売されていた。

タイトルは「Red Rose」

あたしはそれを買って、会場を後にした。

CDよりも先にライブを観て気に入ったのも、こんな風にCDを即買いしたのも初めてだった。

Night Flightの曲は、歪んだ日常の中にも、未来の光を見てるような、探しているような、そんな歌詞が多かった。

あたしは何度も何度もその5曲入りのCDを聴いた。不思議と飽きる事が無かった。

電車の中。

あたしは座りながら外を眺める。春の花が咲いている。

ipodで「Night Flight」をヘビローテーション
ヘビーな曲調が多いが、歌詞は美しく、時々切ない。

こんな時も、携帯電話のネットで色々検索したり、調べてしまう。
「Night Flight」のHP。メンバーのプロフィール、ライブ情報。BSにはファンの子達のライブの感想、メンバーへのメッセージが書き込まれている。あたしは第三者的にそのHPを

眺めていた。

そして、インディーズバンドだと思っていただけ、実はメジャーデビューが来月決まっているらしく！そんな話題でも盛り上がっていた。かなりメジャーなレコード会社！！　なんだか不思議とドキドキした。

次は、実質上デビューライブだ。

興味が湧いて来た。次は、っ少しだけ会場が広い。

目的地の駅に到着した。

今日は漫画家のアシスタントの仕事。あたしの自宅は都内で、先生の家は埼玉だから、少し離れている。駅からはタクシーで向かう。

雑誌で連載をしている「羽鳥みずほ」先生は、あたしより一つ年上で、22歳。この年で連載を持っていることは、少女漫画家では実は珍しくない。

でも「先生」と言うのと嫌がる・・・しかし、なんで「先生」なんだろうね???

でもあたしも「先生」は微妙だな（笑）

羽鳥先生の家は実家で、一戸建てだった。

アシスタントは、今日は2人だ。

あたしはだいたい背景担当。でも仕上げにはベタを塗ったりとか、トーンを貼ったりとかも、もちろんする。

いつものように、ラジオや音楽を聴きながらの仕事。

意外に（？）女の子らしい話や、音楽の話、他愛もない話をしたり、和やかに作業が進んで行く。

羽鳥先生は、1日8時間寝ないとダメなタイプらしく、日々コツコツと仕事をしているという話。徹夜も出来ないらしい。

あたしは他にも学生時代にアシスタントをやっていた事があって、その先生とは間逆のタイプだ。

羽鳥先生の仕事場で、もう一つ驚いたのが、お茶の時間があること！！ ケーキを出していただく・・・普通なのかな？ でも、あたしには驚きだったよ！！

あたしは新人漫画家としてデビューしたものの、まだそれだけでは生活できるレベルでは全然なくて、こんな風にアシスタントをしたりしている。

でも、こんな風に同業の人と会ったりするのは楽しみでもあったりする。

そして、こういう無理のない仕事ペースもいい。

先生によつては殺人的スケジュールだったりするから・・・。（まあ、しんどい事が多々・・・）

あたしにとつて、アシスタントもこの業界も、まだまだ新鮮でドキドキする世界。

そして、仕事をしながらもラジオに飽きてしまった雰囲気。あたしは、持ってきたCDをかけてもらう。

〔Night Flight〕の〔Red Rose〕

2人の反応が気になる。

「カッコいいね」

羽鳥先生が言う。

その反応に嬉しくなりホツとする。

やっぱり自分は間違つてないって確信する。

それから、そのたった5曲のミニアルバムをずっと飽きる事なく聴き続けていた・・・。

こんなこと、初めてかも・・・。

そして、ほんの少しずつ空想と妄想が入ってくる。

『このステキな声の持ち主は、どんな人だろう・・・』

『キレイな詞とメロディー・・・これを作った人って、絶対ステキに違いない・・・』

そんな事を思うのも楽しかった。

作詞も作曲もほとんど、ボーカルの「アゲハ」だった。

あたしは、HPでごくたまにしか更新されない日記も楽しみにするようになって、特に「アゲハ」の日記は真っ先に全部読んだ。

アゲハの日記はだいたい詞的な表現が多く、日常が見えにくく、それもまたミステリアスで魅力的に思えた。

あたしにとって「アゲハ」は、この時、まさに2次元に近い存在。現実にはステージでしか見たことが無くて、話した事なんてもちろん無くて・・・。

ステキなイメージだけが先行する・・・。

次のライブまでのあたしはこんな感じで・・・。

迷走する日常を振り払うかのように、「Night Flight」の音で彩っていた・・・。

- stage 2 - 二次元（後書き）

stage 2 いかだったでしょうか？

優羽は序々にアゲハにハマッてますね

これからも優羽は走り続けます！

さてさて。始めたばかり、序盤ではありますが、メッセージ、どんどん募集していますよ！！

「早く更新して！」などの声や、批評、感想なども・・・（誹謗中傷でなければ・・・><；）

じゃんじゃん返信しますので、お気軽にメッセージください

- stages - 日常

PCの前に向かう。

この時が、あたしにとって一番リラックスできる時間かもしれない。

「Night Flight」のHP。

メジャーデビューに向けて、着々と色々な事が決まっているらしい。

テレビの深夜番組のタイアップ。埼玉のラジオ局の深夜番組のレギュラー。

プロフィールや私生活も謎だけど、この間のライブではメンバーは誰一人喋らなかった。

たまたまなのかと思いきや、BBSでの情報では、いつもそうらしいとの事……。

ラジオ番組は週に一回、深夜の1時〜3時という、そんな時間帯！！

でも夜行性のあたしにとってはそれほど苦じゃなかったんで、それも楽しみだった。

息抜き？ 逃避……???

そんな自問自答。

でもあたしには、何か支えになるものが必要だった。

上手く行かない日常……。

机の端に追いやられた紙束……。

ネーム用紙の山……ネームというのは、漫画の下書きの下書

き。絵コンテ状態の物の事。

担当編集者に、何度も没を食らい、お蔵入りネームはすでもう数えたくもないほど……。

やる気があってもカラ回りだったり……。

『だから、「下手な鉄砲数撃ち当たる」じゃ駄目なんですよ』
大学を出たてのあたしの担当編集はそう言った。

ネームをいくらやったとしても、お金になる訳じゃない。

原稿ってというのは、だいたい掲載されてから初めて原稿料が発生する訳であって、本描きの原稿などはそれなりに材料費もかかってしまふ……。普通にバイトをする方が、よほど効率よく稼げる……。

才能が無いって、思ったら負けだ……。

そんな事を思いつつも、思考は時々逃げ回っていた……。

ベッドに横になると天井がぐるぐる回る……眩暈がする……。

不安に襲われながらも、

『疲れてるんだ……』

そう言い聞かせ、思考をなるべくストップさせる。それ以上悪い方向に考えないように……。

- s t a g e 4 - 和音

次のライブは新宿。

会場は歌舞伎町を通過し、奥まった所にある。

歌舞伎町に行くのは、初めてではないけど、場所柄なんだか妙な緊張がある。

ホストらしい派手な若い男、そしてキャバクラのスカウトマン。学生やらサラリーマン、OL風な人達など、歩いているのは様々・・・。

目的のライブハウスは、初めて行く場所。

少し迷いつつも、何とかたどり着く。

会場は地下。

少し並んで、番号順に入場する。

ワンマンではないけど、今回は前の方の場所とは行かず、中程。

それでも充分見える会場なのだが。

デビューライブというだけあって、会場の期待は以前以上の物なのだろう・・・。

「N i g h t F l i g h t」の出番までは、対バンを聴くともなく眺めていた。

聞く耳を持たない訳では無かったが、何か引きつけられる物が無い・・・。

以前見たことのあるファンが、どんどん増えて行く。

「あのう・・・「ナイト」のファンですか？」

後ろから声がした。

『?????・・・あたし?????』

振り返ると、少し大人っぽい女性。

「わたしですか？ ナイトフライト見に来てますけど・・・」

「わたし、一人で来てるんですけど・・・よかったら一緒にいいですか??？」

「・・・はい・・・」

突然の事に、少々戸惑う。

思いがけない展開。

ライブは他の友達を誘ってはいたけど、一緒に来てもいいとか、あまりそんな好反応が返って来なかった。

あたしは人見知りする方だから、なかなか自分からは声もかけづらいし、会話も続きにくい。でもその人は話上手なのか人慣れしているのか、自分のペースでどんどん話す。

「あたし、和音^{かずね}っていうの。名前、何て呼べばいい？」

「優羽^{ゆう}・・・」

「ユウちゃんか・・・」

和音さんは2つほど年上で、以前から相当バンド好きで、有名バンドの追っかけ（入り待ち出待ち）の経験もあるという話。

あたしには無縁な話だけど、興味はある。

ナイトフライトの出番まで、そんな話をした。

和音さんは、パツと見、派手で少しキツそうな印象。

でも話すと柔らかい口調で、かわいらしい。

営業販売の仕事をしているらしく、そのせいか、やはり人あたりがいい。

洋服の販売じゃないってところが意外だった。見た感じ、そんな印象。

いつの間にか、優羽ちゃん、和音ちゃんと呼び合っていて、人見知りなあたしにとって、珍しい展開だった。

そしてナイトフライトの出番が近づくと、お互いに落ち着かなくなる・・・。

そう、そろそろ始まる・・・「Night Flight」のステージ・・・。

- s t a g e 4 - 和音（後書き）

久々の更新になりました><;

こまごまと更新できれば・・・と思っています。

ぜひ作者紹介ページより、メッセージお願いします^^
しますので

返信

- stages - AGEHA

SEが始まる。

いつものように、幻想的で、時には暴力的な音。

ギターのアキが作ったオリジナルらしい。

激しさをます音に、照明も激しく点滅し、ステージを照らす。

そしてファンの声援。

「アゲハ〜!!」

「アキ〜!!」

「シュン〜!!」

競うように、叫びになっていく声。

順番にメンバーが登場すると、会場のボルテージも声援も、一気に高まる!!

そして、ギターの一音。

アキの鮮やかな音。

アゲハの少し掠れた声。クールに色っぽく響き渡る。

曲は「Red Rose」

今回は、あたしも何度もリピートしていて知っている曲!

会場もうつとりと聴き入る。

そして、一気に炸裂するボーカルと、ギター!! アキのギターとアゲハのギターが重なり合い、ドラムも激しさを増し、ベースとリズムを刻む。

会場が、揺れ出し、熱狂してゆく。

あたしも揺れて、隣の和音ちゃんも頭を振っていた。

切なく、退廃的で、・・・でも一緒にいたいって、強く願うラブソング。

ストレートな歌詞ではないけど、深く響く歌。

あたしは歌うアゲハをうつとりと見つめる。

ウエーブがかった、少し顔を覆う髪が、青い目を彩っていてキレイだった。

憂いを含んだ表情が、詞の世界観と重なり、魅了する。

時には体を揺らし、頭を振りながら歌うアゲハ。

あたしは、彼の一拳手一投足に釘付けになっていた。

あたしは、アゲハが好きだった。

もちろん、リアルには何も知らないけど。声も、曲の世界観も、ルックスも。HPの日記や、少ない情報や文章に垣間見る、アゲハの全てに魅了されつつあった。2次元的な、憧れかもしれないけど・・・。

彼の攻撃的な青い目。マイクをなぞり、ギターを弾く指先。

あたしにとって、全て新鮮な魅力。

そして、会場全体を魅了する。

届かないから、手を延ばしたくなる。

最前列にいるコは、時々アゲハに手が届きそう。そんな距離。

次はもっと前に行こう・・・そう思った。

今回のライブは、曲も覚えたとし、その分、前のライブよりずいぶん入り込めた気分。CDも一発録りのような、ライブ感溢れる作り

になっていたが、やっぱりライブは全然違って断然いい！！
会場には女の子ファンが圧倒的だが、男ファンもいる事が納得できる。

ステージはあつという間の8曲だった。
相変わらずメンバーのMCは無い。かろうじて曲名を言う時があるくらい。

あたしの空想と妄想は、ますます加速する。

アゲハの歌詞の登場人物が、あたしにとってはアゲハそのものだった。

夢を歌うアゲハ。

愛を歌うアゲハ。

絶望と希望を歌うアゲハ・・・。

会場を射抜くような、強い目のアゲハ。

どれも、あたしにとって、理想に思えたんだ・・・。

- stages - AGEHA (後書き)

stage5、いかがだったでしょうか???

引き続きメッセージお待ちしています

作者紹介ページ、またはこちらからお願いします

[http://syosetu.com/g.php?c=w9238b](http://syosetu.com/g.php?c=w9238b&mp:m2=3&mp:to=w9238b)

mixiでも、気軽にメッセージくださいね^^

- stage 6 - ファン

ナイトフライトの出番が終わっても、和音ちゃんとあたしは結局ドリンクを飲んだりして、ライブハウスが閉まるまでそこで話したりしてた。

今日のライブの話とか、お互いに他に好きな音楽とか・・・好きな音楽は、不思議と重ならなかった。

そしてライブハウスのスタッフの呼びかけで、お客さん達は会場を後にする・・・。

あたしと和音ちゃんも外に出る。

すると「ナイト」のファンの面々が、まだ会場前にたくさん残っていた。

「出待ち組だね。」

和音ちゃんがそれを見て一言。あたしはそれに問い返す。

「え????」

「皆、ナイトのメンバー待ってるみたいだよ！」

ほとんど初めて見る光景に、あたしは興味深々。

今までビッグアーティストのライブで、普通に観て帰るだけの、ごく一般的な客だったから、むしろ新鮮だった。

「興味ある？」

和音ちゃんは、以前好きだったアーティストの出待ちとか入り待ちをやっていたって聞いていた。そんな話に興味が無い事もない。

「ちよつとだけね。」

曖昧に笑って答える。

「じゃあ、30分だけ待ってみようか」

そんな和音ちゃんの提案。

「それくらいなら・・・」

やっぱり、興味あるのかな？あたし・・・（笑）

その時はもう、アゲハが大好きだったし、会ってみたかった。

でも、なんとなく、夢の世界の人に現実に出会ってしまうと傷つくんじゃないかって・・そんな正体の分からない不安・・。

でも思い切って、普段やってみないことをやってみようとも思えた。

「手紙、書いたら？」

見ると、手紙を書いているファンの子達がいる。

漫画家として、一応デビューしている自分。ファンレターはもらっても、もう書く機会なんてないと思っただけど・・そんな自分の中の枠組みを外してみるのも悪くないかもしれない。

「今なら手紙を渡しても読んでもらえそうだけど、売れたら読んでもらえなくなるよ、きつと・・。後からあの時手紙渡せば良かったって、後悔しても遅いから・・。」

和音ちゃんのその言葉で、さらに心が動いた。

傷つくかどうかなんて曖昧な不安。やってみないと分からない・・。

そして、そんな事で傷付いてボロボロに立ち直れなくなるような自分じゃないって・・その時の過信・・。

「大丈夫！」

あたしは自分の心を決めて、後押しした・・。

便せんは持っていなかったたので、メモ用紙に近いメッセージカード。

何を書いていいか分からない・・！

今日のライブの感想と、とりあえず自分の名前と簡単なプロフィール。

迷った挙げ句、そんな短い言葉は意外とすぐに書き上がった気がする。

待っている時間、他のファンの子に話しかけられ、少し話をした。ベースのシュンのファンの子。イズミちゃんといって、一番に話しかけてくれた。

「誰のファンですか？」

「・・・アゲハ・・・」

少し戸惑って答えるあたし。

「あたしはシュンのファンなんです！」

元気なイズミちゃんは18歳。若い・・・。

その子のおかげで、少し他のファンの子とも話す事ができた。

ナイトのファンは仲がいいみたいだ・・・。

Night Flightはまだ数百人規模の会場でライブをするバンド。固定客にしたら、まだそんなには居ない、毎回ライブに通っているのは数十人つてところか???

客全体が知り合いになっていてもおかしくはない。

まだ結成して半年・・・間もないバンドだったので、特にファンの上下関係があるとか、そんな雰囲気ではなかった。Night Flightは、結成間もないといっても、アゲハやアキは以前やっていたバンドがあつたらしく、そんな話も少しした。

公式には発表していないようだが、アゲハが25歳。ギターのアキが30ちょつとの年齢。シュンは19歳だった！見えない、年上だとばかり思っていた！！

初めての人は苦手だけど、そんなファン同士の話は楽しかった。和音ちゃんは一歩引いたような感じで、そんな話を聞いていた。

- s t a g e 7 - 出会い

しばらくすると、だいぶファンの数も減ってきて、それでも数十人は残っているという状態。ちょっとしたグループになっていて、それぞれ話していたりした。

すると、ふいに皆の視線がライブ会場の地下入り口の方へと向かう。

メンバーが出てきたようだ。これから駐車場に向かうとか、そんな雰囲気。

最初に出て来たのは、ベースのシュン。何人かファンの子が手紙を渡しながらかけていた。

見ると、例のシュンファンのイズミちゃんは

「どうしよう！ 手紙書き終わってないよ」

と、少々パニック。

シュンが通り過ぎそうになる。

あたしは見てられなくなって、彼女の背中を押す。

「大丈夫だよ！ほら・・・」

あたしを少し振り返ると

「うん・・・」

迷いながらも、何とかシュンに手紙を渡す。

「あの・・・手紙、書きかけなんですけど・・・」

緊張で声が堅くなる。

「ありがとう・・・」

そう言って微笑んで手紙を受け取るシュン。

それだけで興奮気味なイズミちゃん。

あたしの所に帰って来ると、

「背中押してくれてありがとう！」

と言って、こぼれんばかりに笑った。

そして次にはアゲハも出てきた。

あたしは固まりそうになる……。和音ちゃんが、今度はあたしの後押し。

「ほら、アゲハだよ！」

あたしはメモのような手紙を見つめる。

「うん・・・」

その瞬間を、忘れない。

アゲハの方に近づく。

ステージとは違う、普段着のスプリングコートにサングラス。

「これ、メモみたいですいません。手紙です！」

こつちを見つめるアゲハ。

「ああ・・・」

サンキュ・・・」

そう一言。

あたしはそれで十分だった・・・！

それ以降の事は、あまり覚えてないくらい・・・。

アゲハの声を、近くで聴いた。

ステージや歌ってる時と同じ、少し割れ気味な、低いトーンのセクシーな声。他にはあまり無い声が、耳に残る。

アゲハの手が、触れそうなくらい、近かった。

でも、現実味が無いくらいフワフワとした感覚。

ステージの延長線上で、夢を見てるみたいで、魔法が解けないよう・・・。

あたしは和音ちゃんにそんな様子を報告しつつ、アゲハの姿を目

で追っていた。他のファンと話しながら手紙を受け取り、やがて姿が見えなくなった。

「また、待つてようね〜！」

イズミちゃんが手を振っている。そんな様子は、無邪気でかわいい。

「バイバ〜イ！またね。」

そう言って帰って行く。あたしも手を振り返す。

本当に、素直で元気でかわいいコ。こっちまで笑顔になれる・・・。

あたしと和音ちゃんもその場を後にした。

あたしの中で

『サンキュ・・・』

って、アゲハのその一言が、ずっと繰り返し繰り返し、何度も響いていた・・・。

それは、宝物のような瞬間。

あたしの運命が、確かに変わった瞬間だった・・・。

- s t a g e 8 - 想い

歩きながら、絵を描きながら、仕事をしながら・・あたしは相変わらず「Night Flight」の曲を聴いていた。我ながらよく飽きないと思っただけ、曲に対する思い入れやイメージがより膨んだが、飽きることは無かった。

やっぱりあたしのイメージでは、登場人物は「アゲハ」。愛の言葉は自分に向けて・・なんて思っではないものの、やっぱり妄想は膨らむ。

そして、アゲハの語る夢を、自分の夢と重ねてみる。

「サンキュ・・・」

ってそれだけの言葉。

でも、そこに「アゲハ」という人物は確かに存在して、言葉を交わして、手紙を受け取ってくれた・・・。

いつの間にか、アゲハに、もっと伝えたい事が出来てしまった。

どの曲のどの部分が好きか・・・。

アゲハの、どんなところが好きか・・・。

自分が、どんな夢を持ってるか・・・。

どう伝えていいのか分からないけど、今度はもっとちゃんとした手紙を渡したいって思った。

そして、緊張しながらPCのに向かって、HPのBBSにコメントを書いてみる。ライブの感想を書いた、それだけの事に、やけに時間がかかる。アゲハが見てるって、確信は持てないのだけど・・・。
ナイトのBBSを読んでもみると、ファン同士でのやりとりも多い。

友達や知り合い同士が多いようだ。

あたしは少し、場違いな感じがしたけど、それでもアゲハと少しだけでも繋がりを持てるような気がして、想いを書き込んだ。

うつん。曲を聴く。

ライブ会場にすること。

それだけでも、もう繋がってるって思うんだけど・・・。

自分が何をしたいかも分からないまま、ただナイトの曲の世界に浸り、アゲハに惹かれていったんだ・・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1375d/>

ナイトフライト2 . 5

2010年10月9日11時14分発行